

デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会（第9回）

議事要旨

1 日時

令和6年6月26日（水） 10時45分～12時00分

2 場所

中央合同庁舎2号館（総務省）8階 第1特別会議室/WEB会議

3 出席者（敬称略）

構成員：

岡嶋裕史（中央大学政策文化総合研究所所長）、クロサカタツヤ（株式会社企代表取締役）、高田潤一（東京工業大学環境・社会理工学院学院長/教授）、中島美香（中央大学国際情報学部准教授）、平田貞代（芝浦工業大学大学院理工学研究科准教授）、宮田純子（東京工業大学工学院情報通信系准教授）、安田洋祐（大阪大学大学院経済学研究科教授）、柳川範之（東京大学大学院経済学研究科教授）、若森直樹（一橋大学大学院経済学研究科准教授）

総務省：

松本総務大臣、渡辺副大臣、竹内総務審議官、今川総合通信基盤局長、山内サイバーセキュリティ統括官、荻原電波部長、飯倉放送政策課長、渋谷総合通信基盤局総務課長、中村電波政策課長、廣瀬基幹・衛星移動通信課長、小川移動通信課長、内藤電波環境課長、清重革新的情報通信技術開発推進室長、西室電波政策課企画官、加藤国際周波数政策室長、武馬電波利用料企画室長、小倉基幹通信室長、中川重要無線室長、入江移動通信企画官、増子新世代移動通信システム推進室長、竹下監視管理室長、臼田認証推進室長

4 配布資料

資料9-1 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会 報告書（案）

資料9-2 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会 報告書（案）概要

資料 9-3 デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会 報告書（案） 一枚概要
参考資料 9-1 検討スケジュール（想定）

5 議事要旨

（1）開会

渡辺総務副大臣から開会に当たり挨拶があった。

（2）デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会 報告書（案）について

資料 9-1、資料 9-2 及び資料 9-3 に基づいて事務局から説明が行われた。

（3）意見交換

主な議論は以下のとおり。

なお、意見交換の後、報告書（案）の内容については、本日の議論の中で出た意見を踏まえ、座長に一任された。

（中島構成員）

資料 9-3 のWX（ワイヤレストランスフォーメーション）に関する一枚概要をはじめとして、大変充実した内容となった。特に、ワーキンググループにおける検討結果との関連が明確である点が非常によい。

書きぶりについて一点提案がある。資料 9-3 の 3-2 「RADIOイニシアティブ」②の移行・再編・共用（2）括弧書きでは「条件付オークションの導入を含む」となっている一方、資料 9-2 の 8 ページでは「条件付オークションの収入の活用も含めて検討」となっており、資料 9-3 の当該括弧書き内を例えば「条件付オークションの収入の活用を含む」としたほうが誤解を招きにくいと思う。現状の記載からは、この理由でオークションが導入されるという印象を受けるのではないか。

（西室企画官）

指摘いただいた箇所の書きぶりについて検討する。

（高田構成員）

「電波利用の拡大」について一つ気になった箇所へコメントする。無線のライフライン化について、資料9-2の4ページにも類似の記載があるが、ライフラインとして使用される無線が先にあり、電気通信事業としての無線が後に出現したように認識しているため、ライフライン化という言い方が適切かどうか疑問だ。これまでは特定の公共サービスが主に使用していた無線が、一般の人にとっても一層ライフラインとして重要になったことがポイントなのではないか。公共安全LTEを意識した書き方である可能性も感じるため具体的な書き方は事務局に任せるが、無線のライフライン化という記載については、これまでもライフラインであった中で少し違和感がある。

(西室企画官)

制度の成り立ちを踏まえれば、御指摘のとおりであるため、事務局で書きぶりを検討する。

(高田構成員)

資料9-3は、電波政策に関しての一覧性が非常に高い資料であり、パブリックコメントの終了後でよいものの、英語へ翻訳して公表する予定の有無を伺いたい。英訳版があれば、海外に対して日本がこういったことを実施していると伝える際に役立つと思う。

(西室企画官)

資料9-2や資料9-3を含め、タイムラグこそ多少あるかもしれないが、英語化していると考えている。これまでも他の構成員から同様の意見を受けており、英語化や広報の在り方についても併せて考える必要があると思っている。本文中においても電波のリテラシーに触れており、電波の使い方の広報など前回の森川座長からの意見も踏まえ、英語化に取り組む方向である。

(宮田構成員)

資料9-3における政策の柱という重要な位置づけの3-2について、①~④のうち④において青文字が一つもないことが気になった。④についても頭文字を取っているのであれば、キャッチーなポスターであるところ、重要な箇所を青文字などで色づけしてもよい。

(西室企画官)

色づけ修正したいと思う。

(クロサカ構成員)

質問が1つ、コメントが2つある。

まず質問である。資料9-3の1-1-1の③「安全・安心」の2つ目に経済安全保障という言葉がある。この言葉を使うほうがいろいろと各方面への通りがよいのであれば現状の記載のまま構わないという前提にて、経済安全保障に限られるのか、あるいは国家安全保障全体を包含し単純に安全保障という記載も可能なのかを伺いたい。先ほどのコメントにもあった、英語版の作成に私も賛成であるが、英語資料を作るときに経済安全保障は非常に訳しにくく、諸外国では経済と付かず単に安全保障だろうと指摘されることが多い。無理のない範囲で検討いただければと思う。

次にコメントである。

1つ目に、私はWXという言葉に少々感心した。DXはよく世の中で誤解されているものの、DXそのものはゴールではなく連続的な営みであると考えるところ、恐らくDXになぞらえてWXというからには、このWXの営みも継続的に取り組むことだろうと理解した。一方で、永久に取り組み続けるのも大変であるから、要所要所で最低の短期的なゴールを設定し次に進むというアジャイルな取組が必要になると思う。まさしく3年ごとの見直しではないが、そういった議論も含まれていると思うため、今後もWXについて継続されるのが望ましい。

2つ目に、免許制度の簡素化に関してコメントする。今後の論点という程度に認識いただければと思う。簡素化は重要であり賛成する。高田構成員がコメントしていたと思うが、周波数が高くなり遠くまで届きにくくなれば干渉しない可能性が高まり、簡素化できる部分がある。一方で、様々な規格やそれに伴う電波の割当てが乱立する可能性もあるという観点がある。ある程度は許容しなければならない部分があると思うが、電波利用があまりにも簡素化した結果、何でも簡素化となってしまうと大変なので、ユーザー目線と産業目線を総合した戦略が必要であると思う。恐らくこのRADIOイニシアティブを具体化するためには戦略が必要だと思うところ、引き続き検討やブラッシュアップしていただきたい。

(西室企画官)

1つ目の御意見の国家安全保障、経済安全保障の書きぶりについては検討する。

2つ目のWXに関するアジャイルな見直しの話については、資料9-3に書き込めなかつ

たものの、資料9-1本文「おわりに」の末尾において、今後も不断の見直しが必要であるという趣旨を記載している。

3つ目の免許の簡素化と規格の乱立について、簡素化を進めるに当たり、既に使用されている周波数を別のものを使用する場合に、現在どのような人が電波を利用しているか不明だと困ることになる。どのような情報を把握しなければならないかも含め、長期的な課題として一つ一つ考えていく必要がある。

(安田構成員)

先ほどの宮田構成員の発言に関連して少しコメントする。資料9-3右下の④の部分を青字にすることに賛成である。加えて、この資料を見ると、①~③は(1)~(3)と3項目ずつあるが、④は2項目しかないため、④も3項目へ揃えるとよいのではないかと。

RADIOイニシアティブやWXという名称はいずれも素晴らしいと思う。政府のこうした文書は、内容は充実しているが名前や伝え方が不十分なことが多いと思う一方で、人口に膾炙するかは置いておき、単に中身を議論するだけでなく広まりやすいコンセプトも含めて提示するのは、今後もあるべき姿として非常に手本になると思った。

(岡嶋構成員)

私も資料9-3が読みやすくてよいと感じた。加えて、電波に関するリテラシーがまだ不十分な人向けの版も作成いただけるとありがたい。

私は高齢者向けのスマホの啓発番組を長年務めているが、その視聴者は恐らくこの資料を読みづらいただろう。WXは、まさに高齢者や、生まれつき生活に困難を抱えている方などこそに享受していただきたいため、リテラシーがまだ不十分な層の人も読めるような、広範囲へ啓発できる資料があるとありがたい。

(西室企画官)

岡嶋構成員のコメントについて、資料の書きぶりの点では、例えば資料9-3は、画面投影した際は文字が小さく、A3サイズへ印刷した際は使いやすい資料である側面があり、場面によって使用する資料を変える必要があるため、より分かりやすい版として、例えば資料9-2の2ページ目のようなA4サイズの簡略版を作成したり、平易な言葉で表現したりすることは非常に重要だと我々も考える。WXのイメージやコンセプトが分かりやすい簡略版

資料を作成する必要があるとは思っており、使用場面が特定されているのであれば、相談に応じて調整・対応したい。

（柳川座長代理）

資料9-3は、A3サイズで印刷した状態では見やすいが、スマホで見ると見づらくともあるため、用途に応じて適切な見せ方は異なると思う。

（平田構成員）

この資料に至るまで幅広く議論してきており、多様な側面の意見を反映した上で今に至ること、これだけ多岐にわたる範囲の議論をまとめていただいたこと、それに貢献できたことを非常に感慨深く思っている。

資料について最後のブラッシュアップの観点からコメントする。資料9-3が今後目立っていくであろうことと、高齢者に限らず国民全体がこの1枚の資料を起点に政策を理解するだろうことを考えたときに、上部に記載されているWell-being、多様性、リスクリソグ・リカレントは、市民にとって日常的に重要なところであり、それが4つの政策の中どう結びつくかにおいてさらに工夫の余地がある。しかしながら、1対1で全てが結びつくわけではないため、インフラや生活が非常に複雑であるところ、逐一マトリックスで連携・リンクする必要はないが、例えば資料9-1の「おわりに」や、資料9-3のどこかにおいて、Well-beingや多様性について実は電波が関わっていることを、技術に詳しくない一般市民にとっても同じ目線で理解できるようになるとよい。

（西室企画官）

いただいたコメントのとおり、事務局としては、資料9-3上部の①の社会構造も当然に重要であり、電波は、1-2の電波利用の拡大の箇所にも記載したとおり多様な人々が今後も様々なことに使用するものであるため、今回の資料を通して、Well-beingなどの多くの人に関係する話とこの政策が関係することをどう分かりやすく伝えるかは悩みどころである。例えば、1枚の資料で表現したり、一般の方が見るであろう媒体に書いたり、資料9-1において冒頭でメッセージを伝えたりすることが重要だと私も思っており、今後のブラッシュアップ過程や、「はじめに」、「おわりに」、参考資料の追加作業における工夫が重要だと思っている。

(若森構成員)

私も、資料9-3について、よい資料であり非常に便利であると思うのと同時に、これを初めて見た人は、多数の専門用語に戸惑う可能性があると思う。例えばV2XやHAPSなど、私もこの懇談会に参加していなければ恐らく聞き慣れない言葉が多数登場するため、もし報告書を対外的に打ち出していくなら、専門用語集のようなものがあるとよいのではないか。例えば、スマート農業のような言葉であれば何となく意味を想像できるが、特に略語に関しては意味を想像しにくい用語もいくつかあるので、何か手当てをしていただけるとありがたい。

(西室企画官)

従来の例では、例えば報告書において、末尾に用語集が参考資料として付属していることもあるため、報告書本体ではなく参考資料扱いになるだろうが、用語集の追加を検討したり、A3サイズの資料9-3のA4サイズ版を作成したりするときは、可能な限り専門用語にならないようにすると同時に、コンセプト上やむを得ず使用する場合には注釈をつけるなどしたいと思っている。

(高田構成員)

資料9-1の52ページ及び資料9-2の7ページについてコメントする。帯域確保目標について、文章中では現在の達成状況が説明されているものの、目標の達成度合いが図から直ちに読み取れるようにしたほうがよい。例えばセルラ網のローバンドで確保する1.8GHz幅について、1.8GHz幅を追加で確保できるはずがないので、ほぼ確保済みだろうと理解する。今後拡充する帯域がどこなのかよりわかりやすい表現方法としたほうがよい。

(西室企画官)

確かに、将来の目標があるのに現状が読み取れないと、どこまで何を努力すればよいのかわからないため、現在地を分かりやすくすることも含め、資料9-1と資料9-2における表現について検討する。

(西室企画官)

事務局において、本日欠席の中尾構成員から2点ほど受け取っている意見を代読する。
「1つ目に、資料9-2はポイントが分かりやすくまとめられている。当方からコメントした電波利用の拡大や効率化については、ほぼ全て報告書に記載していただき感謝している。
2つ目に、次のステップとしては、報告書に書かれている新たな電波利用の拡大、特にローカル5Gの免許取得の容易性やIoTの宇宙利用推進などが、ライフラインや新たなビジネス拡大につながるアクションプランをお願いしたい」という意見をいただいている。

(岡嶋構成員)

素晴らしい報告書が出来上がっているという前提で、次のステップについてコメントしたい。

例えば、NTNが重要であることに異論はないと思うが、これを発展させていく際に、電波に関する技術だけではなく、運用の効率化などにも注目して議論をするとよいのではないか。例えば、衛星コンステレーションのようにメッシュ状に地球を覆わなくても、高需要の場所に集中して運用する技術を確立できれば、結果的にはライフラインとしてさらに高度化し、災害時における安心・安全なネットワークの構築に繋がると思う。

次世代の通信技術について今後議論されると想定しているが、空間コンピューティングなどが今後発展していくことが見込まれるため高速大容量の特長が重要な一方、運用技術についても併せて議論するとデジタルビジネスの拡大に寄与できるのではないかと思う。

具体的には、通信の場合、通信経路と給電経路が別であるが、無線においてここを統合できれば、新たなビジネスの拡充に期待できると思う。技術が高度化すると、エンドユーザーがついていけない問題が発生するが、普及啓発活動に今後も注力していきたいと思う。

(クロサカ構成員)

報告書全体について、私から内容の追加要望はなく、非常に練り上げられたものであると思う。細部については先ほどまでの議論内容を事務局において引き続き対応いただければよい。

この懇談会における検討の大前提は、電波が私たちの日常生活の中で不可欠になっていることだと思う。先日、電気通信事業者から、能登半島地震後に久しぶりにスマートフォンで音楽が聴けて、やっと心が落ち着いたという若い被災者の方がいるという話を聞いた。電波がもはや単なるインフラではなく、私たちの健全な日常を支えていることを実感したエ

ピソードだ。また、地上基幹放送の一部をインターネットを使用して伝送する検討も進行しており、既にインターネットが生活基盤になっているということだと思う。

電波は今後さらに日常に染み出していくだろうし、既に5Gは我々にとって空気のような存在になっているように思う。こうなると、その価値が分かりにくい。空気は存在して当たり前だと皆が思うわけだが、私はそうではなく、むしろ空気だからこそ、いい空気やおいしい空気が欲しいという声次第に高まるだろうと考えている。

その上で、電波利用全般や5G整備の目標設定において、今回、より良質なインフラや良質な使い方の検討を進めたことは、エポックメイキングであると考えている。恐らく、性能の高さのみを表面的に求めるのではなく、人間にとって、あるいは人間を取り巻く環境にとって真に必要なものは何かを考える転換点を現在迎えているのだと思う。

一方で、高速に進んでいる技術革新を前向きに取り込んでいくことが必要であり、電波利用をより振興するための技術開発に対する支援についてはぜひ推進いただきたい。これを政府のリードにより進めることで、インベンションつまり新しい技術の発明と、イノベーションつまり創意工夫による普及の2つが加速すると考えている。ぜひこういった取組を今後も進めていただきたく、私自身もその一助になればと考えている。

(高田構成員)

報告書の内容に関して、細かい点については先ほど何点かコメントしたが、全体の方向性については、全く異存なく、非常に前向きな報告書になっていると思う。また、自身のバックグラウンドも踏まえ、周波数の有効利用、特に共用について、非常に踏み込んだ書き方がされたことを感謝している。

一方で、お題目としての共用についてはきれいに書けるものの、実際の共用に当たる検討については、ステークホルダー間で非常に神経質な議論が飛び交っているところである。特に電波利用料も含めた観点から共用の検討を行う上で、必要となるプラットフォームの整備に関して引き続き対応いただければと思っている。

従来までは、周波数を使用業務別に割り当てた場合、基本的には免許人が早い者勝ちで使う仕組みであったところ、短期間で周波数共用の議論が進んできたと思う。技術的な観点や、周波数資源の観点から早い者勝ちとせざるを得ない場合もあるが、引き続き具体的に検討していただければと思う。

(中島構成員)

全体像、未来像及び将来像についてコメントする。

今後、5Gが普及することにより、議論の中で出てきたように、AI、IoT、自動運転、VR、メタバースなどの明るい未来が待っており、こういった技術が社会に浸透していくのだからと考えている。国際的な動向を踏まえても、こうした流れは不可避であり、日本もこういった競争下に置かれるのだからと考えている。ビジネス面では、これらの技術を使用したスマート農場の例があったように、自動化が進んでいくのだからと思う。利用者はこれらの技術を利用したサービスの提供を通じてメリットを享受できる。

この見せ方については、総務省から、WX、RADIOイニシアティブという形で、よい資料にまとめていただいたと感謝している。特に私はワーキンググループへも出席したが、ワーキンググループにおける検討内容との関連を明確にさせていただき、目標となる数値が提示された点も非常によいと思っている。

地方における生活基盤の維持・向上を意識し重視しているのはとてもよいことだと私も思う。一方で、AIやIoTの世界における都市間競争の中で、日本の地方都市を含む都市が目されることも重要になるだろう。今後、5Gの普及に当たり、ワーキングで検討したような、めり張りのある置局が極めて重要になると思う。都市におけるわくわくした体験のようなものが5Gを通じて地方にも共有され、クロサカ構成員からのコメントのようにその逆もあるだろうし、リアル・デジタルの両面において、都市と地方のいずれも活性化するのが理想だと考えている。そのためのインフラ整備として、ワーキンググループで検討したような着実な整備が重要になるのだから。

個別の論点としては、周波数の移行・再編・共用の制度整備に入念に取り組む必要があることや、災害対策について報告書に記載された事項が重要になるだろうことを理解している。

(宮田構成員)

私は普段は情報ネットワークの研究に従事しており、今回、デジタルビジネス拡大に向けた電波政策懇談会の構成員として参加し、周波数に関する大切なポイントを整理できたと思っている。特に本日の資料では、資料9-3が非常に分かりやすい資料になっており、今後様々な人の参考になる資料が完成したと思っている。

私の研究分野である通信トラヒックの観点から、1点コメントする。

今回まとめていただいた政策の柱でもある、陸のみならず、海、空、宇宙といったあらゆる空間において電波を利用拡大していこうという考え方に深く賛同する。これを推進すると、通信トラヒックの要求量は増大するが、使用可能なサービスが次第に増え、結果的に生活が大いに豊かになると思っている。

インターネットのトラヒックの観点からは、ネットワークを高速に処理するネットワーク基盤づくりも重要であるため、今後もネットワーク基盤の構築を継続し、今回議論になった周波数の有効活用という観点も踏まえながら、引き続き議論できればよい。

(平田構成員)

私は技術経営学を専門にしており、その技術経営学という学問においては、例えば日本は技術が優れていても経済的効果で劣るだとか、人や社会に対して技術が本当に役立っているのかというようなアンチテーゼもあるところ、技術と人や社会のつながり・貢献度をどうリンクさせていくかということを研究している。その観点も生かして、今回の電波政策懇談会では、技術だけが先行するのではなく、どのように人や社会に貢献していくのか、経済的に効果があるのかということに注力して議論した。

その成果として、例えば資料9-3において、その成果が一目瞭然に現れていると思う。下部に4つの政策が書かれているが、それに至るまでの社会や市民の観察から始まり、様々な視点が議論された中で4つの政策に至ったことが非常に分かりやすく説明されていると思う。

現在までの成果として非常によいものが完成したことに感謝もしている一方、今、世界を見渡すと、生成AIをはじめとして、新しい技術が一度広まるだけで多大な影響が出てしまうことを踏まえると、今後も新しい技術の進化などによって、社会や人々の生活やビジネスなど様々な仕組みが一変してしまうこともあり得るだろう。その中で、今回の社会や人々の観察から導かれたこの4つの政策を、環境との整合性を絶えず見直ししながら、さらによりものへと進めていく必要があると思う。引き続きその点で協力させていただきたい。

(安田構成員)

素晴らしい報告書を取りまとめていただき感謝する。私から内容についての強い追加要望はなく、今後の方向性についてコメントする。

経済に関連する箇所注目すると、今回、WXを押し出したことによって、例えば資料9-

3の一枚概要の「2. ワイヤレス新時代の実現」においては①②③の3つ、概要の6ページにおいては「Business Innovation、Life Diversity、Trusted Connectivity」の3つが三位一体となって、WXによって今後進展していくことが視覚的に理解でき非常によい。WXと類似しつつも少し毛色が違うのはデジタルトランスフォーメーション、DXであり、DXはビジネス・経済の印象が非常に強いコンセプトである一方、WXは、ビジネスも重要にしつつ、それ以外の要素も酌み取りやすい概念であるため、これを国が広げていくことで、我々の暮らしの豊かさのを包括的に高められると思う。

経済の面で、今後注目すべき点についてコメントする。資料9—3の「Business Innovation」においてGDPの成長予測のグラフが掲げられており、GDPは最もよく使われている指標ではあるものの、ワイヤレスの活用のされ方に細かく目を向け、需要面で新しいサービスが生まれ、供給面で新しいイノベーションが生まれやすくなり、需要・供給の双方へワイヤレスが貢献できることに関して解像度を高めたほうがよい。GDPを指標とした場合、需給双方の影響による伸びが予想される。また、経済に関しては、こうした平均的な成長も依然として重要であるが、格差と分断が非常に大きなトピックになっている現状において、ワイヤレス技術が、格差解消や、日本で言うと例えば地方と都市部のギャップを埋め、分断が起こらない形での情報共有のされ方などとも関連づけて議論できると将来的にはよい。

(若森構成員)

素晴らしい報告書になったと思う。

懇談会の名称にもあるとおり、現在数多く勃興しつつある電波を利用した新しいビジネスの芽を摘まずにしつつ、なおかつ、国民の貴重な資源であり現在ひっ迫している周波数を誰にどのように割り当てるかは非常に重要な問題であるため、資料9—1の3—2などに記載される移行・再編・共用においては限られた周波数資源を可能な限り多くの人の要望を満たしつつ割り当てるという方向性を示せた点において、私も非常に意味がある報告書であると考えている。

今後を見据えた議論として、全体的な方向性は非常によいと考えるものの、今後の電波政策や電波利用料の使途の観点について、引き続き議論する必要性があると感じている。特に現在、収入面において、電波利用料制度以外にも、特定基地局開設料制度や今後導入予定の条件付オークションなどの多くの制度がパッチワーク的に存在しており、部分的には効率的に映る一方、電波政策全体として振り返ったとき、果たしてそれが全体的な意味で効率的

に利用されているのかは、まだ明確ではない部分があると考える。

適切な制度設計のためにも、一度ゼロベースで、こういった割当てが真に社会的に効率的なのかを考えてはどうか。もちろん社会的に効率的なものを今すぐ導入しようとしても大きな摩擦が生じてしまうため、すぐに導入するのではなく、それを10年後に実現するためには、現時点においてこういったマイルストーンを設定すればよいのかという視点も必要であると思う。そのマイルストーンに向かう途中で、現在の技術革新のスピードによって次第に当初とは異なるゴールに変化する部分もあるとは思いますが、柔軟に制度が設計できるとさによいのではないかと今回の議論を通じて学んだ。

(柳川座長代理)

各構成員からコメントがあったように、電波は、かつては情報通信産業に影響を与えるものという印象が強かったが、近年は我々の生活や経済社会全体に与えるインパクトが非常に大きくなってきていることが現在の技術革新の大きなポイントであると思う。この点において、電波を有効活用し、より豊かな社会と経済を実現させるという大きな目的と観点からまとめられた今回の報告書は、非常に大きな意味・意義がある。

ただ、各構成員から指摘があったように、この大きな目的について考えようとする、情報通信産業に限らず、関連産業、関連のビジネス、関連の規制と綿密な連携を考えなければ大きな相乗効果は得られないこともまた明らかである。具体的な政策の展開において、他の産業、他の規制、他の省庁とどういった連携を取るかが、この報告書の次の大きな課題であると思う。

その際、今回登場した、宇宙に代表される新たな電波利用のされ方は大きな発展可能性があると同時に、新たな制度設計が必要になるという意味で、難しい問題も抱えているのだろう。

一方で、国民全体においてはセキュリティや災害対策も非常に関心が高く、ここにしっかりと対応することも大きなポイントであると思う。

資料9-3でまとめられている内容をしっかり実現させていくことで、日本経済と日本社会の大きな好循環が生まれてくると思っており、ぜひその実行を期待したい。

(4) 閉会

松本総務大臣から閉会に当たり挨拶があった。